

ノートル=ダム・ド・パリの再建に関心を寄せて下さる日本の皆様へ

ノートル=ダム・ド・パリ日本語翻訳プロジェクト

はじめに

2019年4月15日にパリのノートル=ダム大聖堂で大規模な火災が発生してから早くも一年と五ヶ月が経過しました。この火災により、大聖堂の屋根全体(13世紀の小屋組、19世紀の鉛製屋根板と鉛製棟飾り)と、19世紀の建築家ヴィオレ=ル=デュックが建設した交差部尖塔は完全に焼失するに至りました。2020年9月現在、ノートル=ダムの失われた上部の再建に向けて各方面における懸命な活動が続けられています。

ノートル=ダム・ド・パリについて

パリのノートル=ダム大聖堂の現在の建物は、パリ大司教モーリス・ド・シュリーのもとで1163年から建設を開始され、その後13世紀から14世紀の間に段階的な増改築を経て、完成しました。ノートル=ダム・ド・パリの建設が開始された12世紀半ばのフランスでは、それまで山間部や南方の僻地に建てられた修道院を主な舞台として展開していた「ロマネスク」と呼ばれる芸術に代わり(11世紀)、北方の経済的に発展した都市を中心に「ゴシック」と呼ばれる新しい芸術が開花しつつありました。ノートル=ダム・ド・パリは、この中世ゴシック芸術の最高傑作の一つとして、そしてフランスが最も誇る文化的・宗教的遺産として、世界中で広く知られています。

建築家ヴィオレ=ル=デュックについて

建築家ウジェーヌ・エマニュエル・ヴィオレ=ル=デュック(Eugène Emmanuel Viollet-le-Duc, 1814-1879)はフランスの著名な建築家たちの中でも最もよく知られるうちの一人であり、18世紀末以来瀕死の状態にあったノートル=ダム・ド・パリを再び生き返らせた立役者として広く知られています。「建物を修復するというのは、それを維持したり、修理したり、あるいはやり直すということではなく、いつの時代にも決して存在しなかったかもしれない完全な状態を建物に取り戻させてやることなのだ」の一文に代表される彼の修復理念(様式統一)およびフランス各地での修復実践は、彼の死後20世紀以降も激しい批判と様々な議論を呼び起こしました。とはいえ、中世建築の構造の仕組みがまだよくわかっていなかった19世紀という時代において彼がこの建築を凄まじい情熱を持って昼夜研究し、その成果を通称『中世建築事典』の刊行によって体系化し、崩壊寸前の状態にあった多くの中世建築を救出したこともまた事実であり、オーギュスト・ペレなど20世紀初頭の近代建築の巨匠もヴィオレ=ル=デュックの影響を受けています。現代においてもなお我々を惹きつけてやまない人物、それが建築家ヴィオレ=ル=デュックと言えるでしょう。(ヴィオレ=ル=デュックと彼の『中世建築事典』については『建築史学』第71巻(2018年9月)掲載の書評も参照のこと:https://doi.org/10.24574/jsahj.71.0_238)

Association des Scientifiques au Service de la restauration de Notre-Dame de Paris について

昨年生じた火災の翌日(2019年4月16日)、フランス内外の研究者たちからなる非営利学術団体(Association des Scientifiques au Service de la restauration de Notre-Dame de Paris, ノートル=ダム・

ド・パリ修復のための学術連盟(仮称)が創設されました。この連盟の主な目的は、「歴史的建造物を研究対象とする専門家たちを結集し(建築史学、美術史学、考古学、建設工学、材料工学、保存科学、環境学など)、フランス国立科学研究センター(CNRS)によって組織化された研究チームに貢献すると共に、一般市民や報道機関を対象とした情報発信・普及活動を通じて、その学問的知識や専門的技術を当該ノートル=ダム・ド・パリの修復に役立てること」にあります。この目的に照らして、連盟では公式ウェブサイトに会員が執筆したノートル=ダム・ド・パリの歴史とそれに関連する様々なテーマの専門記事ならびに論文(仏語)を公開し専門的知見を提供している他、Facebook上の公式ページを通じて一般向けに関連情報の発信を行っています。また、一部の会員は火災後の現場調査や今後の具体的な再建計画の立案などにも中心的に関わっています。

ノートル=ダム・ド・パリ日本語翻訳プロジェクトについて

上記活動の一環として、今後は一層幅広い国際的な情報発信を視野に入れ、連盟の公式ウェブサイトに掲載する仏語の記事と論文を英語ならびに日本語へ翻訳する奉仕事業が本年2月の会合で決定されました。これを受けて、同連盟会員である東京大学工学系研究科・学術支援職員の嶋崎礼と同じ会員であるトゥール大学客員研究員の川瀬さゆりの二人が担当を表明し、本年5月に本プロジェクトが発足致しました。しかしながらプロジェクト開始に際して、翻訳しなければならない記事の分量の多さとその内容の多様性から、より多くの専門分野の研究者の協力が必要であると判断し、私たちと共にこの膨大な翻訳作業に取り組んで下さる有志を募ることに致しました。その結果、日本とフランスで活動する四名の若手研究者(下記一覧参照)と名古屋大学文学部の木俣元一教授が快く呼びかけに応じて下さいました。監訳作業には木俣教授に加えて、佐藤達生大同大学名誉教授と京都工芸繊維大学の西田雅嗣教授がご協力下さいました。また、本プロジェクトの運営に関しては東京大学工学部の加藤耕一教授からもご支援を頂けることになりました。

本プロジェクトの主な目的は、「連盟のウェブサイトで公開された仏語記事・論文の日本語翻訳を行い、日本国内の研究者や一般市民に向けてノートル=ダム・ド・パリに関する知見提供と今後の修復活動に関する情報発信を行うと共に、ノートル=ダム・ド・パリ修復に関する日仏間交流窓口の役目を果たすこと」にあります。また、今後は当該ノートル=ダムだけでなくフランスのゴシック建築全般についての一般市民の関心や理解を深める一助となるべく、日本語ウェブサイトの開設や翻訳以外の独自の解説記事の公開等、様々な活動を予定しております。

おわりに

本プロジェクトが、日本の多くの方々に少しでもノートル=ダム・ド・パリやフランスのゴシック建築についての理解を深めて頂く一助となり、当該ノートル=ダムの再建および建築遺産全般の継承に対するご関心や問題意識を深めて頂くきっかけとなるならば、訳者一同幸甚に存じます。引き続きノートル=ダム・ド・パリの今後の動向にご関心を寄せて下さいますよう、本プロジェクトを代表して日本の読者の皆様には何卒よろしく御願い申し上げます。

2020年9月
川瀬さゆり・嶋崎礼

翻訳プロジェクト

1. 記事

Fiches thématiques (<https://www.scientifiquesnotre-dame.org/fiches-thematiques-1>)

	テーマ	記事数	翻訳担当者
1	Les incendies dans l'histoire 「歴史上の火災」	10	秋岡安季 (あきおか あき)
2	Charpentes et toitures 「小屋組と屋根」	8	川瀬さゆり (かわせ さゆり)
3	La structure de Notre-Dame 「ノートル=ダムの構造」	7	嶋崎礼 (しまざき あや)
4	Les roses, les vitraux et les fenêtres 「バラ窓、ステンドグラス、窓」	7	木俣元一 (きまた もとかず)
5	Notre-Dame dans l'histoire 「歴史の中のノートル=ダム」(翻訳中)	14	湯浅茉衣 (ゆあさ まい)
6	Les architectes de Notre-Dame 「ノートル=ダムの建築家」	4	嶋崎礼 (しまざき あや)
7	La restauration aujourd'hui et dans l'histoire 「今日そして過去における修復」	4	川瀬さゆり、松井健太 (かわせ さゆり、まつい けんた)
8	Décor et polychromie à Notre-Dame 「ノートル=ダムにおける装飾とポリクロミー」	2	勝谷祐子 (かつたに ゆうこ)
9	Méthodes d'étude et d'analyse des matériaux de construction 「建設材料の調査と分析の方法」	10	嶋崎礼 (しまざき あや)
10	Imagerie et reconstitution 「イメージング・テクノロジーと復元」	1	松井健太 (まつい けんた)
11	L'environnement et Notre-Dame 「環境とノートル=ダム」	6	松井健太 (まつい けんた)

2. 論文

Articles et réflexions de nos membres

(<https://www.scientifiquesnotre-dame.org/articles>)

論文名	著者	翻訳担当者
La charpente de Notre-Dame de Paris : état des connaissances et réflexions diverses autour de sa reconstruction 「ノートル=ダム・ド・パリの小屋組—知見報告とその再建をめぐるいくつかの見解」	Frédéric Épaud (フレデリック・エポ)	川瀬さゆり (かわせ さゆり)

La charpente en béton de la cathédrale de Noyon 「ノワイヨン大聖堂のコンクリート製小屋組」	Arnaud Timbert (アルノー・タンベール)	川瀬さゆり (かわせ さゆり)
Les cathédrales incendiées. La restauration des toitures des cathédrales françaises détruites par le feu aux XIX ^e et XX ^e siècles 「焼失した大聖堂—19・20 世紀に火災で損壊したフランスの大聖堂の屋根の修復」(翻訳中)	Olivier Poisson (オリヴィエ・ポワソン)	川瀬さゆり (かわせ さゆり)

(2020 年 5 月末時点で公開済の記事のみ記載)

3. 翻訳者一覧(敬称略)

秋岡安季 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻、加藤耕一研究室、博士課程

勝谷祐子 ストラスブール大学ヨーロッパ芸術文明歴史学研究所員

川瀬さゆり トゥール大学客員研究員(LAT CITERES UMR7324) /JSPS 海外特別研究員

木俣元一 名古屋大学大学院文学研究科、美学美術史学研究室、教授

嶋崎礼 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻、加藤耕一研究室、学術支援職員

松井健太 日本学術振興会(JSPS)特別研究員 PD(千葉大学)

湯浅茉衣 東京大学大学院人文社会系研究科美術史学専門分野、博士課程/パリ・ナンテール大学、博士課程

4. 監訳者一覧(敬称略)

川瀬さゆり トゥール大学客員研究員(LAT CITERES UMR7324) /JSPS 海外特別研究員

嶋崎礼 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻、加藤耕一研究室、学術支援職員

木俣元一 名古屋大学大学院文学研究科、美学美術史学研究室、教授

佐藤達生 大同大学、名誉教授

西田雅嗣 京都工芸繊維大学大学院、デザイン・建築学系、教授

5. プロジェクトメンバー

代表: 川瀬さゆり、嶋崎礼

委員: 秋岡安季、勝谷祐子、川瀬さゆり、木俣元一、嶋崎礼、松井健太、湯浅茉衣

顧問: 加藤耕一、木俣元一

6. お問い合わせ

ノートル=ダム・ド・パリ翻訳プロジェクト

notredamedeparis.japan@gmail.com